

なごや 市民活動通信

2017
6月号
No.55
無料

発行：名古屋市市民活動推進センター

INDEX

特集 地域とNPOの協働事例集を発行しました！

センターニュース



NPOアドバイザーによる専門講座&個別相談会が拡大されました！

名古屋市市民活動推進センターでは、NPOの運営に必要な「会計・税務・労務」など専門分野に関する講座、また、「設立・運営・会計・税務・労務」に関するあらゆる相談に、NPOの分野に通じる専門家が対応する個別相談会を毎年実施しています。

皆さまのご要望にお応えして、今年度から専門講座と個別相談会の実施回数を増やしました！それによって講座のテーマも増え、充実したラインナップとなっています。

「今は任意団体だけど、法人化したいので、運営について知っておきたい」「会計書類を作成しているけれど、金額がうまく合わない！」など、NPOに関する様々な悩みに合わせた専門講座、個別相談会をご用意しておりますので、ぜひご活用ください！

詳細については、当センターのホームページ「なごや★ぼらんぼナビ」をご覧ください。当センターまでお問い合わせください。皆さまのご参加をお待ちしております！

昨年度の様子



問い合わせ先

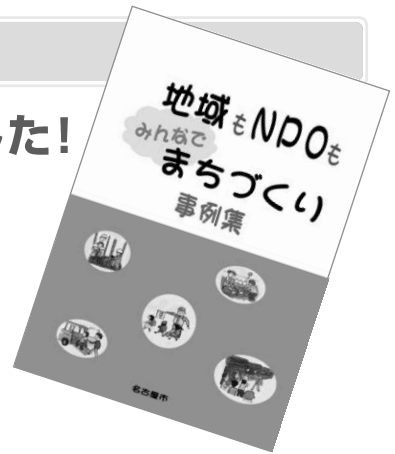
名古屋市市民活動推進センター
電話：(052) 228-8039 FAX：(052) 228-8073 Eメール：npo@shiminkeizai.city.nagoya.lg.jp
URL：<http://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/npoinfo/>

NPOアドバイザーによる専門講座&個別相談会の日程については、p3の一覧を参照してください。

特集

地域とNPOの協働事例集を発行しました!

地域コミュニティとNPO等の多様な主体とが協働して地域活動に取り組んでいる事例を調査し、その結果をとりまとめた冊子を作成しました。さまざまな組織が協働してまちづくりに取り組む際のポイントをわかりやすくまとめたほか、知っておくと便利な窓口や情報なども掲載しています。現在、地域活動に携わっている方や社会貢献活動をされている方、またそうした地域活動を応援している方、ぜひ活用ください!!



◆事例集の使い方!

地域活動に携わっている方	地域役員だけでは難しい地域の課題について、どのように協力団体を探していくとよいか参考にするために
社会貢献活動をされている方	市民活動団体、教育機関、企業等での社会貢献活動を、地域のために、地域と共に取り組むときの参考にするために
地域活動を応援している方	色々な組織が協働してまちづくりをする上で、どんなタイミングでどんな応援をするとうい参考にするために

◆こんなことが書いてあります!

事業の「概要」と、地域の特徴が書いてあります。

事例1 交流カフェとマルシェ (守山区瀬古学区)

概要
「始めは電線絡みちやっつけられた」といった誤解があった瀬古団地の自治会。これに対して、①住戸から自治会への相談の交通整理をする、②住民が交流できる場をつくらせ、③月一回の「交流カフェ」がスタート。そこで始まった。高齢者の見守りや若い世代の活動がきっかけで進んだ。協議を踏まえ、今では、毎週(水曜午前)に、移動販売によるマルシェを組み合わせた形で実施されています。

地域の特徴
・学区区 14,025人、世帯数 5,711世帯(平成 28年 10月)。
・1979年に建設されたUR賃貸住宅の瀬古団地を有する学区。
・瀬古団地は 282 号、うち約 60 戸が空室。222 戸が入居。
・自治会長は約 160 世帯。委員会約 62 世帯(入居済約 1割)

取組みの流れ

月1回のカフェを開催 平成 20 年に、「住民交流」「自治会への相談の場」として、自治会主催の形で、交流カフェを開催。 毎月第 1 水曜 13 時~15 時の時間帯の空きを、当初は、ボランティアのスタッフ・リース制作等の企画も行っていた。	課題の明確化 カフェでの話の中から、以下の課題が浮き彫りになった。 ①高齢者の見守りとして月 1 回では不足。 ②若い世代へのアプローチ。 ③30 分ほどの短い時間では、話し合いの場が足りない。 ④高齢者の見守りや若い世代の活動がきっかけで進んだ。	移動販売の協力を得る 「買い物難民」について、区社会福祉協議会(社協)が移動販売を行うことや、障がい者がパンをつくる作業室を紹介してくれ、カフェで販売するようになり、菓子で販路も生じた。障がい者の情報提供で、新たなコプあいの協力が得られるようになった。
--	--	--

地域のニーズや課題を把握するには おしゃべりは、課題発見の場 ●月 1 のカフェのおしゃべりの中から、高齢者の見守りや若い世代の活動など、住民が抱える課題が明らかになりました。 ●アンケートや会議以外に、住民同士が自由に話せあえる場を持つことは、地域ニーズを把握する上で重要な役割を果たしています。	知っておくと便利な窓口や情報 社協は現場をつくるに役立っています ●カフェを依頼に家社協の職員に、若い世代の活動や「マルシェ」の開催、運営費用の一部を補助する制度を名古協から受領しています。その他の活動費の補助も、相談できます。
---	---

定期的な集いの場が課題解決の核に

協働のカタチ

- ・毎週水曜 8 時~11 時にモーニングカフェが開催され、コプあいの移動販売も 11 時頃に開催するので、買い物をする人は 9 時半頃までカフェに集っておしゃべりしながらお茶を飲むことが出来ます。移動販売の情報は、守山区社会福祉協議会が提供しました。
- ・UR 都市機構も、活動に賛同し、場所提供をしてくれています。

地域団体	●主催/瀬古団地自治会(運営) ・学区社会福祉協議会、民主主義児童委員協議会(運営補助)
NPO等	・コプあいの(移動販売・大宮インナー店取扱い店)
企業	・UR 都市機構(集合住宅の提供)
行政・関係機関	・守山区社会福祉協議会(運営補助、助成金提供)

どんな組織がどんな協力をしたか「協働のカタチ」が書いてあります。

週1回のカフェとマルシェの形 ・高齢者の見守り力を高めるため、平成 24 年から時間を上げて、毎週水曜 8 時~11 時開催に、平均 25 人参加の増加。 ・内容は、企画も話しあったり楽しみながら、お茶とお菓子を用意する。マルシェの準備もスタッフで準備。運営は、当番制の手当は出さず、民生院職員や自治会の役員が自主的に担当。コプあいの移動販売も協力を得られる。障がい者も、若い母親にもフリーマーケットを併設する時もある。	成果:住民の状況がしやすくなる ・70 歳以上の約 1割の人が参加。 ・カフェのおしゃべりから、病気の情報が得られ、不安解消になって医師に行くというケースも生まれた。 ・若い世代の活動と共に、移動販売も定着しつづける。お茶を飲むことで色々と住民の顔が見えやすくなった。 ・男性にコーヒーだけ飲んで長居せいで帰る等、自分も含めた集いの場がある。 ・参加のママも増えながら、世代別の仲間づくりも進んでいる。
---	---

実施:連帯体制をどうつくるか? 障やかな運営が長続きのコツ ●自治会長は、時間になったら顔を合わせるだけ。誰かから一纏めに連絡する方が、手配でもらえる金額も生まれるとのこと。道草もなく、誰か一人の負担を減らす「みんなでお茶」方式で連絡しています。 ●若い母親たち「運営費があまりかかっている姿を見せる」フリーマーケットも、開催していることも重要。など、色々な人を巻き込む工夫もしています。	他の団体ともよく協働するには? 協働する団体と関係がある長が活躍 ●移動販売 移動店舗事業体の協力は、手配ですが、コプあいの現場の準備もしていただけています。この関係性から、協働の機会が増え、協働の現場に若い世代の参加も増えています。 ●(注)17年3月現在、協働は協働の進捗は以上で進捗はいいとのこと。 ●UR の協力をカフェに頼ったところ、「こんなにも人が集まっているのだから」と協働を促してくれられたこともありました。現場を見てもらうと異議もありません。
--	---

色々な人や組織と協働してまちづくりに取り組む時の「ポイント」が書いてあります。

◆興味のある方はこちらへアクセス!

＜なごや★ぼらんぼナビ(名古屋市市民活動推進センターウェブサイト)＞

URL <http://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/shisetsu/kankobutsu.html>

※トップページからは、以下の順にクリックしてください。

施設とサービスを活用したい > 施設のことを知りたい(刊行物ダウンロードページ)



NPO法人向け 伝言板

◇ NPO改正法に伴う貸借対照表の公告 ◇

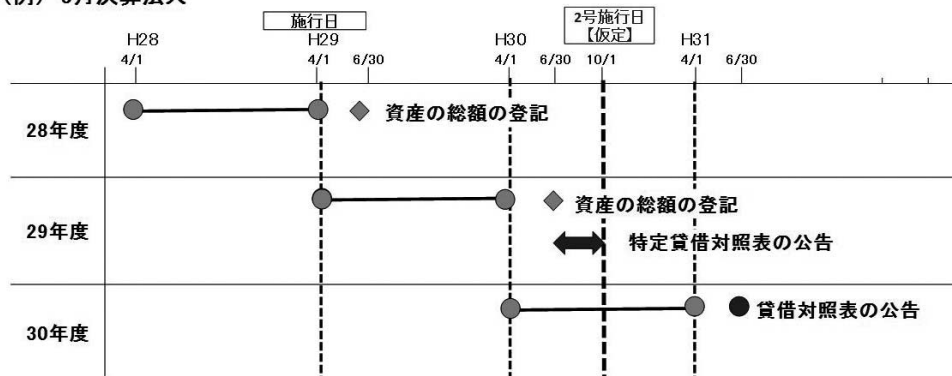
NPO改正法に伴う、貸借対照表の公告について解説します！

平成28年6月に特定非常利活動促進法が改正され、貸借対照表の公告が必要になります。

貸借対照表の公告に係る規定の施行日は、別途、政令で定める日となりますが、平成30年10月1日と仮定すると、平成30年10月1日以後に作成する貸借対照表が対象となります。

ただし、平成30年9月30日以前に作成した貸借対照表で直近のもの（特定貸借対照表）についても公告する必要があります。

(例) 3月決算法人



- ・28年度分は、従来どおり「資産の総額の登記」が必要
- ・29年度分は、「資産の総額の登記」と「特定貸借対照表の公告」が必要
- ・30年度分は、「貸借対照表の公告」が必要

貸借対照表の公告方法は、次の①～④のうち、定款で定める方法により行う必要があります。

- ①官報に掲載
- ②日刊新聞紙に掲載
- ③電子公告（法人のHP、内閣府NPO法人ポータルサイト等）
- ④法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示

【問い合わせ】名古屋市市民活動推進センター TEL:052-228-8039

3月の設立認証NPO法人

名称(五十音順)	目的
あいちヘリテージ協議会 [中川区]	歴史的建造物の保存と活用を促進し、伝統的木造建築文化と建築技能の継承と発展を図ることで、資源と共存する持続可能な社会の実現を目指す
みろく [熱田区]	高齢者日常生活支援事業の情報提供及び相談業務を行い、生活支援事業の担い手の増加を図るとともに、担い手となられた方と担い手を必要とされる企業との橋渡しを行い、地域社会との繋がりを保ち、安心して働ける社会の構築を行うことによって、社会福祉の向上に寄与する
ワンワンレスキュー [中区]	ペットの保護や里親探しに関する事業及びペットを生涯家族と考え思いやりと責任を持った飼育の啓発事業を行い、地域社会で見捨てられたペットや保健所で処分されるペットに係る問題の改善や解決を図り、人々の動物愛護精神の向上と動物たちの生命の保護及び健康の増進に寄与する

3月末現在の所管法人数

★ 認証法人数：845法人 認定法人数：19法人 仮認定法人数：3法人





名古屋市民活動推進センター主催講座・イベントのご案内

センター主催講座リニューアルしました!

今年度より、講座の構成を一部リニューアルし、よりわかりやすく身近な情報をお伝えすることにより、一步踏み出すきっかけになるよう内容を工夫しました!それぞれバージョンアップした基礎講座にみなさま是非ご参加ください!具体的な日程については、後日お知らせします。

講座名と対象となる方	リニューアルのポイント
▶ NPOオープンゼミ NPOの基礎的な知識や団体運営の実際を知りたい方向け	「NPOとは?」「NPOとNPO法人はどう違う?」など、NPOの基礎的なお話の他、講師とゲスト団体の方が対話形式で団体の思いや活動について深掘りをしていくような構成になりました。
▶ NPO法人設立準備講座 NPO法人を具体的に設立したい方向け	「法人化する意義」や「法人化後の運営義務」など、活動を継続するために欠かせないポイントをお伝えする内容になりました。前年より実施回数が増えました。少人数制で学べます。
▶ ボランティア入門講座 ボランティアに興味があり、一歩前へ踏み出したい方や、ボランティア情報について知りたい方向け	実際にボランティア活動をしている方から、活動をして良かったことや気をつけることなどを直接聞ける内容になりました。「何か役に立ちたい(してみたい)」という方にもお勧めです。社会福祉協議会との共催により、地域福祉についても学べます。

■ NPOアドバイザーによるNPOのための専門講座のご案内 [参加費:1,000円、要予約]

内容	日程	担当アドバイザー
活動計算書の作り方	6/2 [金] 10:00~11:00	足立勝彦(税理士)
NPO法人の税制優遇	7/5 [水] 14:00~15:00	中尾さゆり(税理士)
はじめてのNPO運営(ヒト・モノ・カネ)	7/7 [金] 10:00~11:00	織田元樹(NPO法人ボラみみより情報局代表)

■ NPOアドバイザーによる個別相談のご案内 [無料、要電話予約]

内容	日程	担当アドバイザー
会計・税務	6/ 2 [金] 11:30,14:00,15:30,17:00より各1時間	足立勝彦(税理士)
会計・税務	6/ 8 [木] 10:00,11:30,14:00,15:30より各1時間	橋本俊也(税理士)
設立・運営	6/11 [日] 10:00,11:30,14:00,15:30より各1時間	間宮基文(NPO法人ボラみみより情報局アドバイザー)
会計・税務	6/21 [水] 10:00,11:30,14:00,15:30より各1時間	堀尾博樹(税理士・行政書士)

講座受講のお申込みは、電話・FAX・メールにて受け付けます。メール・FAXでお申込みの際は、講座名・氏名・電話番号・所属団体・参加動機をご記入ください。名古屋市内で活動しているまたは活動する意志のある個人・団体を対象とします。詳しくは、当センターのホームページ「なごや★ぼらんぼナビ」をご覧ください。

【問合せ・申込先】
名古屋市民活動推進センター
TEL: 052-228-8039 FAX: 052-228-8073
E-mail: npo@shiminkeizai.city.nagoya.lg.jp
URL: <http://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/>

スタッフの
つぶやき

スタッフ:吉岡

わたしたちは日々たくさんの選択をしています。どこへ出掛ける?移動手段は?何を食べる?何をかう?など。そして、これまでの選択一つひとつが「今」を創っています。この冊子を手に取り、つぶやきを読むことを選んだあなた!次はどんな選択をするのでしょうか。講座に参加する?ボランティア活動をする?市民活動推進センターに行ってみる?

